

＜北海道熊研究会 会報＞ 第 83 号 2018 年 8 月 18 日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

既報会報の 1～81 号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

e-mail: [kadosaki@pop21.odn.ne.jp](mailto:kadosaki@pop21.odn.ne.jp)

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

最近、島牧村や札幌市などの市街地やその付近に出没している熊は、今年の 5 月以降に母から自立した若熊で、体長 1.2m 以下、手足の最大横幅 12cm 以下であり、出て来る原因は、行動圏を確立するために、検分に出て来るのである。この種の熊は人が恐ろしいから、人を襲うことは絶対にない。門崎の、50 年間の調査で、この種の熊が、人を襲った事例が無いことでも明白である。だから、危険だ危険だと言って、騒がず、冷静に対処して欲しい。この種の個体は、数日、長期でも 10 日間程で、そこが、己の生活地に適さないことを悟り、出て来なくなる。この行動は、市街地近くに行動圏を有している多くの若熊が経験せねばならない試練である。このことを理解してやるべきである。

決して、殺すべきではない！！！！

対処法

- ① 熊が出て来る場所、徘徊する場所に、電気柵を張る。作物を食害している場合も、電気柵をはる。太陽光電源の簡易な装置がある。これを市町村が用意し貸し出す。
- ② 生ゴミは、暴かれないような対策をする。入れ物を、有刺鉄線で囲む等の対策をする等。

**報道機関は熊を一律に害獣視し、煽る報道は止めよ  
熊研究者は、己の熊の生態（生活状態）に関する無知を恥れ**

<市街地や人家付近へ出没する熊対策>

市街地や人家付近で熊が目撃される時季-----4月下旬～11月末の間である。出て来る熊には、必ず目的と理由がある。それを見極めることが大事。

<出没の原因目的は4つに分けられる>

- ① 5月から8月の間に母から自立した若熊が、5月～11月にかけて、住宅地がどうゆう所か、自分が生活地として、使える場所か否か、検証に出て来る事がある。この種の熊は母から自立した年の1歳代、ないし2歳代の若熊(母から自立した年の子の呼称)に限られる。出て来るのは夕方から朝方の間に、人を避けて出て来るのが特徴。但し、5月6月に出て来る1歳5ヶ月令未満の熊は(熊の年齢は2月1日を誕生日として計算する)、知恵が未発達で、日中や日没前に出て来ることもあるが、人を襲う事は無い(襲った事例が無い)。満2歳未満の野生熊が人を襲った事例は、私が1970年以降検証した限り皆無である。満2歳未満の若熊は、人を襲うという知恵が未発達で本能的に、人を襲わないと私は解して居る。よって、大騒ぎは不要である。2歳代の熊が、5月以前(年令は2歳4ヶ月令である)に人を襲った事例はなく、6月以降(満2歳5ヶ月令)に、人を襲った事例が1970年以降5例ある。 満2歳未満の熊は、足の最大横幅12cm以下、体長1.2m以下であり、満2歳代で、体長が1.2m～1.3m前後、足跡の最大横幅は13cm未満(多くは12cm代である)である。
- ② 道路の横断(林から林へ移動するため)。原則として、人や車の交通量が少ない時間帯に横断する。この場合は熊の年齢は関係無い。
- ③ 農作物や果樹を食べに出て来る。多くは夜出て来る。熊の年齢に関係無い。時季は6月～11月。
- ④ その他(残飯探し。力のある個体に襲われて逃げ出る。子が出てしまい母が心配し出て来る。などがある)熊の年齢に関係無い。被害の予防対策は、<有刺鉄線柵や電気柵>、を一時的又は恒久的に張る。有刺鉄線柵は目幅10<sup>センチ</sup>間隔の地面(下端は地面に接地する)から高さ1.8ないし2<sup>メートル</sup>まで張る。電気柵は太陽光電源を設置する。(了)